

経営体の概要

- ・所在地：北海道今金町
- ・経営体名：檜山北部農業振興協議会
- ・栽培作物・作付面積：2 ha（令和6年6月現在）

導入技術

ロボットトラクタ（ヤンマーアグリジャパン YT4104）
 可変施肥端末（トプコン製 X25）
 G N S S アンテナ（トプコン製 SGR-1）
 可変施肥ブロードキャスト（ビコン製 ROEDW）
 可変施肥対応ブロードキャスト端末（ビコン製 IM-Tellus）
 ドローン（eBeeSQ）
 施肥での使用ソフトウェア：i-Farming（トプコン製）

導入経緯

- 今金町では、国営の基盤整備が実施されており、整備後のほ場合筆による生育ムラが課題であった。
- そこで、R1年のセンシング結果を基に、R2可変施肥の効果検証を行った。

取組の特徴・効果

- センシングからNDVI値マップを作成することにより、ほ場内での生育の差が、一目で確認できた。
- これにより、ほ場内の生育ムラへの対応として、前年のセンシングによるデータから、施肥マップを作成し、水稲の基肥散布時に可変施肥を行い、効果を確認した。
- R1年の8月のNDVI値と、可変施肥を実施したR2年のNDVI値を比較すると、可変施肥を行ったR2年の方が、ほ場の生育ムラは改善されていた。
- R2年の収量調査データから

調査地点	収量対比		
	H30	R 1	R 2（可変施肥）
生育良	100	100	100
生育不良	97	98	104

- 今後、センシングデータから、可変施肥の上限・下限の散布量の検討が必要と思われる。

水稲の生育ばらつき(NDVI図)



R元年とR2年8月におけるNDVI値比較
 ※R2年度：可変施肥実施

前年のセンシングデータからの、施肥マップ